

若い組合員を自治研に巻き込みたい……その2
若者が積極的に参加してもらえそうな
自治研活動にはどうしたらいいでしょうか？

回答
自治研マイスター

でしょうか？

若い組合員の皆さんを自治研活動に勧誘する、あるいは参加を要請するという場面で、皆さんはどういう声掛けをしているのでしょうか？

たとえば、「仕事に役に立つ」「他地域のことを学べる」「いろいろな職種の話が聞ける」「ネットワークが広がる」というようなメリットを説明し、参加をお願いするという感じでしょうか。それ自体、間違っていないと思いますが、ただこの場合も一度、若い方々の考え方やニーズのありかについて考えてみることは有効だと思います。

まず多くの若者は、自治研を「動員」と捉え、自分たちが積極的に参加すべき活動と認識してはいないのではないのでしょうか。ですから、彼らが本当はどういうことを望んでいるのか、右にあげたようなことを若者はメリットと考えているのか、という疑問から始める必要があるようです。

自治研中央推進委員会では、そうした危機感から「UN D

ER35」というグループを結成し、若者企画、若者参加の交流・学習イベントを始めました（今年一〇月に行われた第二弾企画『JK課×自治研IIゆるプロ』については、本誌二二月号でご紹介します）。皆さんの地域でも、この際、思い切つて若者に企画自体からまかせてみてはいかがでしょうか。

自治研の特徴・魅力は、どんな切り口からでも始められること。ボランティア活動、交流会、自主企画による学習会、ご当地グルメ・イベントなど、若者らしい斬新な発想でゼロから考えてもらいます。時には「これが自治研？組合活動？」と言いたくなる場面があるかもしれませんが、そこは先輩。左ページの佐野ひかるさん（静岡県本部）の発言のように、「やってみよう」と少々大目に見るくらいの余裕を期待します！

結果、参加者が集まればそれによし。彼らが少しでも明日の仕事に対するヒントや活力を見出すことになればそれよし、です。そうした積み重ねが、やがて動員や要請なしで組合活動に参加してもらうことにもつながると信じて。

事例

「いつてこいーやつてみるよ！」
その一言が若者に勇気を

——これまで自治研に対し、どういうイメージを持っていましたか？

「研究」という単語で、ものすごく時間を要して分厚いレポートを提出！なんていうイメージをもっていました。専門的な人がやることで、身近なものという風には感じられませんが、若い世代の人がやっている印象もなかったですね。

——全国から集まって自治研を推進する中央推進委員会に参加した感想は？

とても自由に発言させていたと思います（笑）。宮城自治研をどういったコンセプトで開催したらいいかを考えていくと、全国それぞれの地域で抱えている現状の課題へと繋がっていききました。おおむね問題は共通していて、それに向かってどう解決していくべきかをともに考える場にもなっていると思います。

——身の周りで自治研に取り上げられそ

うな課題はありますか？

自分は今年の三月まで税金の滞納徴収の仕事をしていたのですが、根本的解決には相談者自身の生活の見直しが必要ですね。しかし、行政だけの支援では相談に来る市民のニーズへの対応に限界があると感じていました。一徴税吏員の立場でその人の生活態度まで見直すというのはなかなか難しいと思いますので、今以上に福祉全般や地域とのネットワーク、債務整理を職務としている方々との連携の必要性を感じます。

——今、一番、旬な課題の一つですね。その他、自治研推進に向けての抱負は？

まずは自分が行わなければならないのと同時に自治研を広めることですね。組合活動もそうですが、自治研活動も、どうしたらより良くなるのかを考えたときに自然とそれが活動になっているのではと思います。また、これらの活動にはいろんな意味で垣根がありません。地域をもっとよく知りたい、よくしたい、何



回答者●
静岡県本部
自治研推進委員

佐野ひかるさん

実際に、自分から飛び込んでみたという佐野さんの言葉には説得力があるワン。

